

第7章 薬 事

1 薬局の処方せん受取枚数及び医薬分業率の推移（表1、図1）

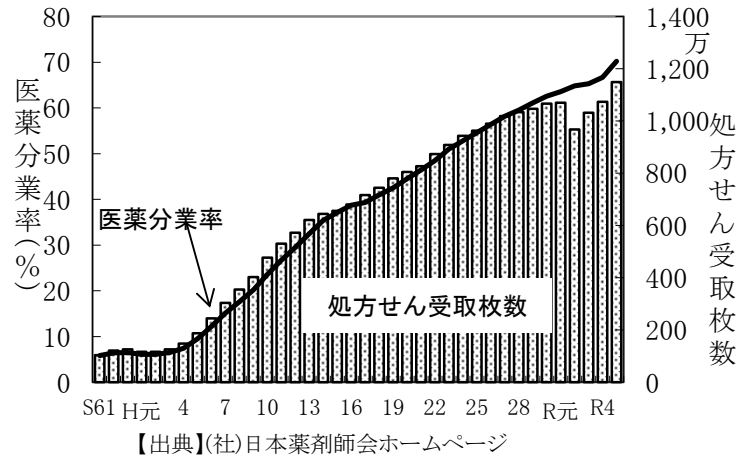
医薬分業は、推進のために様々な施策が実施された結果、薬局の処方せん受取枚数は年々増加傾向にあり、令和5年度は約1,149万枚で前年を上回った。

医薬分業率(処方せん受取率)は、令和5年度は70.2%となり、医薬分業は着実に進んでいる。

表1 薬局の処方せん受取枚数・
医薬分業率及び薬局数の推移
(各年度中・年度末現在)

年次	医薬分業率	処方せん受取枚数	薬局数
平成2	6.1	1,160,853	469
7	15.1	3,035,340	521
12	29.5	5,718,270	618
17	39.3	7,167,874	676
22	48.5	8,730,617	758
27	58.2	10,190,123	877
28	59.5	10,337,486	887
29	61.1	10,473,016	891
30	62.6	10,670,003	903
令和元	63.6	10,696,850	914
2	64.8	9,681,353	941
3	65.3	10,318,691	974
4	66.7	10,729,657	992
5	70.2	11,486,614	995

図1 薬局の処方せん受取枚数及び医薬分業率の推移



$$\text{医薬分業率} = \frac{\text{薬局の処方せん受取枚数}}{\text{医療診療(入院除く)日数} \times \text{医療診療投薬率} + \text{歯科診療日数} \times \text{歯科診療投薬率}} \times 100$$

(処方せん受取率)

2 献血状況の推移（表2、図2） 【統計表 9－第12表】

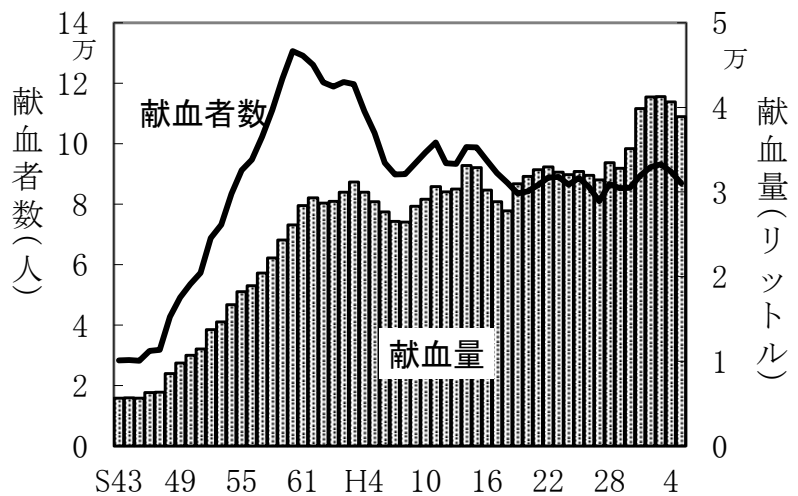
献血者数は、昭和60年度をピークに減少していたが、平成7年以降は増減を繰り返しながらほぼ横ばいの状態となっている。令和5年度は86,906人で、前年と比べ3,854人減少した。

令和5年度の献血量は38,887.7リットルで前年と比べ1778.3リットル減少している。

表2 献血者数及び献血量の推移
(年度中、昭和60以前は年中)

年次	献血者数	献血量
昭和45	28,170	5,634.0
50	53,520	10,704.0
55	91,156	18,231.2
60	130,644	26,128.8
平成2	120,422	29,989.8
7	89,790	26,543.3
12	93,582	30,034.3
17	90,290	28,840.9
22	88,820	32,971.3
28	86,662	33,459.0
29	85,245	32,792.0
30	85,395	35,110.0
令和元	89,369	39,843.9
2	92,299	41,218.5
3	93,199	41,253.7
4	90,760	40,666.0
5	86,906	38,887.7

図2 献血者数及び献血量の推移



【出典】薬務課調べ

【出典】薬務課調べ